

埼玉トヨペット



Green Brave

NEWS



2014年9月6日(土)・7日(日) 岡山国際サーキット(岡山県美作市)

スーパー耐久シリーズ2014 第4戦 スーパー耐久レース in 岡山

大きな期待を持って臨んだ岡山決戦 またもチームに試練を与える結果に

決勝結果

ST-4クラス 37周リタイヤ
#52 埼玉トヨペット GreenBrave

ドライバー

番場 琢選手/服部 尚貴選手/平沼 貴之選手



狙っていた岡山での表彰台登壇はならず。次戦鈴鹿に向けて切り替える

<9月4日・5日>練習日……………木曜日から走行開始。相性の良いコースで上位を狙う

シリーズ最長7時間レースを7位でフィニッシュし、意気上がる埼玉トヨペット Green Brave。第4戦の舞台となる岡山国際サーキットは、昨年と同レースで初表彰台(2位)を獲得したゲンのいいコース。また、8月に行われたOKAYAMA チャレンジカップレースでは、平沼貴之選手が初優勝を飾っており、後半戦でもっとも期待できるラウンドと言っても過言ではない。

チームスタッフはドライバー3名、モータースポーツ室5名、サービスエンジニア8名の計17名。今回は新たにふじみ野支店から石橋エンジニア、戸田支店から木村エンジニアを迎え入れ、万全の体制を敷く。



前戦同様8名のサービスエンジニアが店舗から参加

同じ車両で戦うチームと積極的なコミュニケーションを図る



先発隊は水曜日からは現地入りし、ピット設営、マシン搬入などの準備を慌ただしく行う。木曜日からは番場選手、平沼選手の練習走行がスタート。金曜日からは服部選手もステアリングを握り、事前に施した岡山用セッティングを確認し、調整を加えながらマシンを仕上げている。完走が大前提なのとは言えないが、前回以上のポジション(7位)でフィニッシュし、完走の喜びをチームで共有するのが目標だ。

<9月6日>予選……………ホンダ勢の壁が立ちはだかる。9番手からの追い上げを誓う

予選はAドライバーとBドライバーが20分ずつアタックを行ない、ベストタイムの合算でスターティンググリッドを決める。天候は曇り。今にも雨が降り出しそうなどんよりとした曇り空だ。13時20分。Aドライバーの番場琢選手がコースイン。万が一の雨に備え、早々にタイムアタックを行なう。3周目に1分45秒946をマーク。続いてBドライバーの服部尚貴選手がコースイン。クリアラップのタイミングを探しながらの走行となったが、ベテランらしい確実な走りでも1分45秒977をマーク。合算タイム3分31秒923で9番グリッドにつけた。



予選は番場、服部両ドライバーが1分45秒台をマークし9位



川尻監督を中心に、夜遅くまで決勝のシミュレーションを行う

両ドライバー共に昨年のタイムを1秒以上短縮しているが、それ以上にライバルのタイムが大きく伸びている。熟成の域に達したホンダ勢との差は予想以上に大きく、目標とする上位スタートはならなかった。とはいうものの、昨年も10位から追い上げて表彰台を獲得した。Cドライバーの平沼貴之選手が20分のセッションを走り切り、安定した走りを披露するなど、ポジティブな要素もあり、チームの雰囲気は明るい。予選後は決勝に向けてのあらゆるシミュレーションを行い、この日のスケジュールは終了。

<9月7日>決勝……………マシントラブルによりコース上でストップ。悔しいリタイヤに

決勝日は晴れ。それも前日とはうってかわっての晴天。気温はグングン上昇し、ゆーに30℃は超えている。8時から30分のフリー走行がスタート。服部→番場→平沼の順でステアリングを握り、マシンの感触を確かめる。8名のサービスエンジニアたちの表情は真剣そのもの。走行終了後、ドライバーのコメントをもとに、モータースポーツ室の関口チーフの指示で、テキパキとマシンの準備を進めていく。決勝の作戦は第2戦菅生の時と同様。平沼選手がスタートドライバーを務め、序盤の混乱をくぐりぬけ、服部、番場選手とつないで上位を狙う。ミスなく走り続ければ十分上位でのフィニッシュが可能なポジションだ。



GAZOO Racingの親子パドック潜入ツアーの訪問を受ける

13時31分、2周のフォーメーションラップの後、レースがスタート。平沼選手がドライブする52号車はひとつポジションを落として10番手で1周目を終える。平沼選手の前をレース巧者のホンダ勢がふさぐ。ムリして仕掛けるようなことはせず、前後の距離をはかりながら周回を重ねる。予定通り15周のドライブを終え、ピットイン。給油を行い服部選手に交代する。後方から猛然と追い上げを開始する服部選手。チーム全員の願いは服部選手のステアリングに託された。しかし、38周目に思いもよらぬ事態が！何かしらの原因により52号車のエンジンルーム内のオイルが漏れ、引火。退避路にストップした。幸い火は素早く消止められたが、レースはここで終了。あわよくば表彰台にという思いで臨んだスーパー耐久第4戦は、37周リタイヤという残念な結果に終わった。



ファンサービスでは、新たにポケットティッシュを配る試みも

前戦富士の7時間レースを無事完走し、自信を深めたチームだったが、今回のリタイヤにより、再び足踏みを強いられることに。しかしながら、これもまたレース。原因を究明し、二度と同じことを繰り返さないようにするしか悔しさを晴らす術はない。次戦は10月25日(土)の鈴鹿での第5戦。残すところ今シーズンもあと2レースだが、オール自社チームでの埼玉トヨペットGreen Braveの戦いはまだ1年目。浮き沈みの激しい2レースを経験したスタッフたちは新たな強さを身につけ、鈴鹿に乗り込む決意だ。



コース上でストップの一報に騒然となるピット

VOICE FROM DRIVERS&TEAM PRINCIPAL

とにかく悔しいです。岡山のコースは86との相性が良いので、最低表彰台と思って臨みましたが、乗る前にリタイヤとなってしまいました。次の鈴鹿まで約1か月半あるので、しっかりクルマを直して、一歩も二歩もレベラアップしたマシンで戦いたいと思います。



(番場 琢選手)

オイルラインのフィッティングが壊れてオイルが漏れてしまったようです。気温が上がったことでライバルのペースも落ち、予選日ほどの差はありませんでしたが、止まってしまっただけです。トラブルシューティングを行いきっちり直し、対策します。



(服部 尚貴選手)

路面温度が思った以上に高く、タイヤに厳しいレースでした。もっともっと経験とデータを積み上げていくことが必要だと感じています。自社チームだけにこの結果はすべて自分たちの責任。悔しいですが、1年目のチームが通らなければいけない道です。



(平沼 貴之選手)

とにかく残念です。前戦7時間レースを完走し、そこで得たノウハウをメンテナンスに活かしてきたので、完走し結果を出していいと考えていました。まわりはそれ以上に努力と工夫をしているということです。まだまだ足りなかったと反省しています。



(チーム代表：岩田 勝俊)